

皆さん、いつもありがとうございます。

私には忘れられない呼び声があります。今年の12月21日、お寺の本堂で保育園の子供たちと、地域の長寿会のおじいちゃん、おばあちゃんたちと一緒に「子ども報恩講」をお勤めいたしました。その前夜10時頃でしたか、準備のため、私が本堂に行ったところ、誰かが入ってくる音がしました。「こんばんは」。近くの人でした。「こんな夜遅くにどうしたの？」と尋ねると、「お参りがあるので来たの」と。「お参りは明日の朝10時からだよ。夜も遅いので家まで送っていくよ」と、一緒に家まで行くと、家族の人たちも近くを探していました。

次の日のことです。朝7時頃、お勤めをしようと本堂へ行ってみると、また昨日の人が本堂に入ってきて、「お参りに来ました」と。私は、「そうですか。じゃあ一緒にお勤めしましょう」と言って、二人でお勤めをしたら喜んで帰って行かれました。

今になってこのことを振り返ってみると、この人の呼び掛けは、「毎日いろんな事をやり過ぎているけれども、子どもの純粋で透明な心、素直な心を忘れず、いつも報恩感謝の心を持っていなさい」という言葉として想えるようになりました。私は常日頃から、大きな心でのびのびと、優しい目で目に見えない絆にも感謝して、温かいぬくもりのある心を大切にしようと願っているつもりですが、現実には反対のことばかりです。

失敗の連続の中には、仏様や阿弥陀様の呼び掛けは必ずあります。「お陰様でありがとうございます。ごめんなさい」と相手の方に感謝し、慈悲の心で包み込む仏様の智慧を忘れないよう、合掌したその温もりの中に、仏様や先祖の方との目に見えない絆を深めたいと思っています。